

大友が
亮校演劇

WEB版

令和6年度新潟県高等学校総合文化祭演劇発表会
第60回関東高等学校演劇研究大会新潟予選会
ほか 令和6年度活動の総括

高校演劇の発展を願う

～今年度の活動から～

新潟県高等学校文化連盟演劇専門部会
新潟県高等学校演劇協議会
長谷川雅

「演劇」の魅力は、舞台と観客席が一体となった臨場感といわれます。新型コロナウイルス感染症の影響も少なくなり、高校生が協力しながら全力で演劇活動に取り組めることを大変嬉しく思います。

て、まず、県高校演劇講習会を8月8日、9日に、コロナ禍依頼久しぶりに宿泊で開催し、25校約1200人が参加しました。主

月、南魚沼市（7月）、柏崎市（2月）妻有地区（4月）でそれぞれ開催され、合わせて200人を超える高校生が参加しました。また、創作脚本演劇発表会を1月²⁸日に13校が参加して長岡で開催し、この結果を踏まえた代表校として、万代高校が次年度5月に開催される新潟劇王に参加することになりました。（今年度の代表校は六日町高校でした。）

このような活動ができたのは、演劇専門部をはじめ、活動に関わってくださった全ての関係者のご尽力のおかげであり、改めて心から感謝申し上げます。

今年度の県内各地での発表会については、長岡地区（6月、1月）、新潟市（1

さていよいよ次年度、令和8年3月（りゅう）とびあ新潟市民芸術文化会館を会場に、春季全国高等学校演劇大会（通称「春フェス」）が開催されます。演劇専門部や多くの皆様のご協力が必要ですが、この大会を契機に、全国から演劇を愛する生徒をはじめ様々な演劇関係者が集い、演劇の魅力を共有するとともに多方面に発信すること、本県の演劇部の活動がより活発になることを願っています。

令和 6 年度
新潟県高等学校文化連盟演劇専門部の活動
演劇専門部委員長 高沢 克之

今年度、コロナ以後初めて宿泊をとまなう新潟県青年演劇講習会を開催した。この合宿は、全県の演劇新生徒が一堂に会することのできる唯一の講習会で、毎年、演劇専門部として大切な主催行事の一つとして位置づけてきた。昨年度は日帰りの合宿として再開したが、全県から集まる時間的ロスや講習内容を高めるためには時間が足りないなどの要望が多くあり、コロナ以前の2泊3日とはいかないまでも、1泊2日の日程で開催した。これで専門部活動はコロナ以前に戻ったことになる。

しかし一方で、依然として県内演劇部に所属する生徒数は減少を続け、部活動もコロナ以前と比べれば一割以上減っている。もちろん

ん、その主な原因は県内生徒数全体の減少にあるが、そうした中でどう生徒に活躍の場を確保・提供していくかが課題であり、演劇専門部の存在意義が問われている。今後は、コロナ以前と同様の活動を続けるだけでは、現状さえも維持できないと考えるので、積極的な改善策が急務である。ただ、11月に行われた総合文化祭演劇発表会（県大会）は、例年になくレベルが高く、今後に期待の持てるものとなり、より発展できる可能性も垣間見れた大会となっていた。

以下、今年度行われた県大会11校の作品について、その上演内容を簡単に紹介する。

最優秀賞・創作脚本賞
長岡大手
→ 2042
渡邊健太郎／作（顧問創作）

この作品は、高校演劇では観たことのない「忍者」と「AI」の融合という設定で話が進む。また、大きな舞台セットは見応えがあり、様々な仕掛けで観客を楽しませた。作者



六日町高等学校

この作品は、1986年に田中みゆきさんが書き下ろし、小千谷高校が上演した作品で全国総文祭へ進んだ。新潟県勢はそれ以後開催県枠を除き全国総文祭への出場を果たしていない。作者である田中みゆきさんは3年前に亡くなった。約40年前作品を現代に蘇らせるために台本の8割を書き換えながらも、やはり「シスター」であったと思う。

優秀賞第一席
六日町
「シスター・シスター・シスター」
田中みゆき／作 高澤克之／潤色



長岡大手高等学校

であり顧問である渡邊先生の意欲作であるにもかかわらず、肩に力が入っていない脚本、演出、演技に魅了された。県代表として東大会でも唯一無二の芝居として大きく評価されるだろうと期待をしている。

優秀賞第二席・舞台美術賞
新津工業「黒塚Sept.」
原澤綴一／作
新津工業高校演劇部／潤色

この作品は全国最優秀賞を受賞した作品で、新型インフルエンザがパンデミックを引き起こした世界を舞台にしている。その荒廃した世界で、絶望をはらみながら淡々と話はこの独特な世界観に進む。初めて見たとき、この独特な世界観に圧倒されたことを覚えている。新津工業は男子だけでこの芝居を演じた。男子だけで演ずることで、初演で感じた世界観とは別の凄まじさを感じた。借しきも関東には届かなかったかもしれないが、見事な出来映えであった。



新津工業高等学校

優秀賞第三席
高田北城「ON AIR」
古澤春一／作
高田北城高校演劇部／潤

この作品は、もともと男子の一人芝居として上演された。女子の一人芝居になることで、大きな舞台をその熱量で満たすことができろか心配したが、その心配は幕開きと同時に払拭され、役者の演技に魅了された。セツトも必要最低限であるが、説得力がありよく考えられていた。ただ、審査員の講評にもあったようにラストは完成度が高かった分、もうひと工夫出来たと思つた。



高田北城高等学校

優秀賞第四席・創作脚本賞
新潟明訓 「シリユダマ」
吉田勉／作（顧問創作）

顧問の吉田先生が創作したこの作品は、大雨のためバスの上に避難しながら救助を待つ芝居である。役者はそれぞれ声のトーンが違いい、よく演じ分けられていた。また、セツトもよく工夫されており、バス上への転換は見事であった。ただ、問題があるとすれば、近頃様々な災害を動画サイトで見慣れてしまっているせい、バスの上に取り残された状態が、現実的にはどのようなものか知ってしまったために、芝居でリアルさを表現することの難しさを感じた。



新潟明訓高等学校

以下、優良校は上演順に紹介する。

優 良 賞
巻総合「キッズ・ア・オールライト！」
尾崎亜子／作 巻総合高校演劇部／潤色

巻総合はオーブニングで、力みのない発声の自然なやりとりで演じ、観客を自分たちの芝居世界に引き込んだ。また多くのキャストが登場するが、それぞれのキャラが明確に分けられていて感心した。大会に向けよい稽古を積み上げてきた成果ではないかと思う。巻総合は、毎年そのレベルを上げてきているので、来年度はさらに期待できる。



卷綜合高校